

町田フィルハーモニー合唱団
第15回演奏会・創立20周年記念

ハイドン
四季
オラトリオ

指揮 荒谷俊治

オラトリオ「天地創造」より 〈Die Himmel erzählen die Ehre Gottes〉

指揮 松下京介

ソプラノ 松原有奈
テノール 久住庄一郎
バリトン 末吉利行

管弦楽 町田フィルハーモニー交響楽団
合唱 町田フィルハーモニー合唱団

日本語字幕付

2016年 7月3日(日)

12:15開場／13:15開演／16:30終演予定

東京芸術劇場コンサートホール(池袋)

入場料：S席 3000円 A席 2500円 B席 1500円 学生席 1000円 (全席指定)

チケット取り扱い：東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 (ナビダイヤル:10:00～19:00)

チケットぴあ 0570-02-9999 (3月15日発売予定)

問い合わせ：山内 080-4799-9070 北原 090-6521-6273 e-mail: mpcchorus@gmail.com

主催：町田フィルハーモニー合唱団 http://music.geocities.jp/chorus_mpc/

ハイドン作曲 オラトリオ 四季 Hob.XXI:3

ハイドンは大成功であった「天地創造」に続いて新しいオラトリオに着手し、再び台本作家ヴァン・スヴィーテンの協力を得て「四季」を完成しました。ハイドンの晩年、69歳の大作です。「天地創造」が神による世界の創造の壮大な物語であったのに対し、「四季」では農民の春、夏、秋、冬の生活を、小作人シモン、その娘ハンネ、若い農夫ルーカスと共に、神への感謝を織り交ぜて生き生きと繰り広げます。

1801年に初演されるや大好評を博し、ハイドンの膨大な作品の中でも「天地創造」と「四季」は頂点の位置を占めるものと評価されています。

「オラトリオ」とは、聖書や宗教的な内容の歌詞を持つ物語の曲のことで、独唱、合唱、管弦楽で演奏されます。舞台装置や衣装、演技がないこと、対話がなく語り手があること等の点でオペラとは異なります。

「Hob.XXI:3」は、ホーボーケン番号を表しています。ハイドンの時代は作品番号を付ける習慣がなかったため、オランダの音楽学者ホーボーケンが作品を整理して付けた番号です。モーツァルトで言えばケツヒェル番号に当たりますが、作曲順ではなく32のジャンルに分類されています。オラトリオの分類はXXIで、その3番目がこの曲という意味です。



荒谷 俊治
(指揮)



松下 京介
(指揮)



松原 有奈
(ソプラノ)



久住 庄一郎
(テノール)



末吉 利行
(バリトン)

荒谷 俊治 (音楽監督・指揮)

1930年生まれ。1953年九州大学法学部卒業、1955年同文学部卒業。指揮を石丸寛、作曲を高田三郎の各氏に師事。1959年東京放送合唱団を指揮してデビュー。以来、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団をはじめとする各オーケストラ、合唱団を指揮して活躍。NHKほかの多数の番組にレギュラー出演。1968～1974年東京フィルハーモニー交響楽団指揮者。1969年文化庁派遣在外芸術研修員としてアメリカに留学、ジョージ・セルに師事。1970年春クリーヴランド管弦楽団を指揮、秋からは東京バレエ団ヨーロッパ公演に招かれて、ヨーロッパ各地のオーケストラを指揮して帰国。1974～1980年名古屋フィルハーモニー交響楽団常任指揮者として活躍。殊に「名フィルと邦楽器の名手たち」シリーズでは、名フィルの新しい個性として称賛を得た。これと並行して、1966年頃から日本オペラ協会と協力して創作オペラを、また日本音楽集団と協力して伝統に根ざした日本の新しい音楽を育てることに情熱を注いできた。数々のアマチュア団体の育成にも尽力している。町田フィルハーモニー合唱団では1995年の創立以来音楽監督である。30年以上にわたる音楽文化の発展に寄与した功績で、2002年度東京都文化功労者表彰を受ける。2003年2月～2012年3月、日本指揮者協会会長を務め、現在は顧問。2004年11月、地域文化功労者文部科学大臣表彰を受ける。

松下 京介

香川県さぬき市出身。昭和音楽大学、イタリア国立ミラノ・ヴェルディ音楽院、シエナ・キジアーナ音楽院で学ぶ。2005年バルトーク国際オペラ指揮コンクール(ルーマニア)第1位、2007年ルイーゼ・マンチネリ国際オペラ指揮者コンクール(イタリア)第2位を獲得。小澤征爾、広上淳一、チョン・ミンフン、アルベルト・ゼッダ、ファビオ・ルイーゼ等著名な指揮者の下、新国立劇場、藤原歌劇団、東京二期会、サイトウ・キネンフェスティバル、セイジ・オザワ 松本フェスティバル、小澤征爾音楽塾等で副指揮、合唱指揮を務める。国の内外で多くのオペラ公演を指揮。オーケストラとの共演も多い。第34回川崎市アゼリア賞、2009年3月には香川県文化芸術新人賞を受賞。東京音楽大学指揮科助手、東京二期会オペラスタジオ講師を務め、現在昭和音楽大学、洗足学園音楽大学講師。前さぬき市ふるさと大使。

町田フィルハーモニー交響楽団(MPSO)

1975年1月、町田市民を中心に近在から音楽愛好家が集まり、「町田市民管弦楽団」が発足。同年5月から指揮者・荒谷俊治氏の指導を受け、同年10月に第1回定期演奏会を開催。1977年9月、一層の発展を目指して「町田フィルハーモニー交響楽団」と改称して現在に至る。町田フィルのモットーは「すばらしいアマチュアオーケストラを目指し、音楽を通じて相互の親睦研鑽を深め、あわせて地域音楽文化の発展向上に努めること」である。荒谷俊治氏の薫陶を受けながら、年2回の定期演奏会、1995年まで12年間続いたつくし野駅前での野外オペラコンサート、年末恒例となっていた町田市民ホールでの「第九」<メサイア><くるみ割り人形>公演など、地元根ざしたオーケストラ活動を展開してきた。町田フィルハーモニー合唱団とは2013年7月のメンデルスゾーン「聖パウロ」以来の共演となる。

町田フィルハーモニー合唱団(MPC)

1995年5月、町田フィルハーモニー交響楽団創立20周年記念演奏会で、マーラーの交響曲第2番「復活」が演奏された。その際、公募に応じて集まった人々により結成された合唱団が当団の母体である。この演奏会の指揮者であった荒谷俊治氏を音楽監督に迎え、同年6月にオーケストラとの共演を目指す合唱団として新たなスタートを切って、1996年9月、旗揚げ公演としてフォーレの「レクイエム」の演奏を行ったのを皮切りに、意欲的に大曲を取り上げてきた。荒谷音楽監督に加えて松下京介氏、合唱指揮者香西克章氏、ボイストレーナーとして西けい子氏、藤井大輔氏、久住庄一郎氏など経験豊かな声楽家にご指導を頂いており、この恵まれた環境の中、町田市および周辺の地域から集まった90人を超す団員は、毎週土曜日または日曜日の練習に情熱を燃やして取り組んでいる。2015年で創立20周年を迎えた。



団員募集中 私たちと一緒に歌いませんか♪

次回演奏会予定 モーツァルト「戴冠ミサ曲」とオペラ名曲選

2017年8月 指揮：荒谷俊治

東京芸術劇場コンサートホール



東京芸術劇場へのアクセス:JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線池袋駅西口より徒歩2分。駅地下通路2b出口と直結しています。